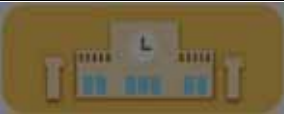


プログラム名		むしのうんどうかい							
対象年齢		年長（５～６歳）							
ねらい	メッセージ	自然の中には、いろいろな生き物がいることに気づこう！							
	発見・体験 できること	・虫を見つける楽しさを感じる ・遊びを通して虫の生態を知る							
参加者のめやす		幼児 ２０ 人 / 支援者 ４ 人							
実施時間		３０分							
フィールド									
		森・社寺林 公園	山・里	川	湖・池	田畑・ 野原	園庭・ 公園		
実施可能時期									
自然を感じる ためのヒント									
時 間		活 動				●配慮・アドバイス アレンジ			
３分		子ども達に活動内容を知らせる				●子ども達が虫に興味を持つようにしましょう。 虫にも命があることを教えましょう。 ●子ども達が捕まえてきた虫は、評価し認めるようにします。 ●虫取りはグループで協力して行うように伝えましょう。 ●生き物には優しく接するように、適切な声掛けが必要です。 虫の嫌いな子には、見るだけなら可能なのか、個々の子どもに対応しましょう。 ●手で虫を触れない子に対しては、捕まえた虫を見たり、飼育ケースを持ったりして活動が楽しめるようにしましょう。			
１分		４グループに分かれる							
１０分		各グループで生き物さがしをする							
		 ここにたくさんいるでー！							
３分		みんなで見つけてきた生き物を観察する							
									

時 間	活 動	●配慮・アドバイス アレンジ
3分	グループで話し合って、飛ぶ虫、飛ばない虫を選出する 	●グループの話し合いの中で子どもの気づきに耳を傾けながら、一人ひとりの思いを引き出せるように言葉掛けをしましょう。
10分	それぞれが選んだ、飛ぶ虫、飛ばない虫を紙の上で競争させ、運動会をする 	●虫の飛び方や動いているところをよく見るよう声かけが必要です。 最後に、虫に関する絵本をゆっくり読んであげると、子どもの虫に関する知識がさらに深まるでしょう。 
【異年齢への対応】 年少：虫を集めるときには、支援者がより多くの声かけをする必要があります。 ：虫の動く様子を見て、なりきり遊びをすることができます。 年中：捕まえた虫を放して、それを追いかけることもできます。 ：虫を手で捕まえることが難しい子どもには、網や帽子で捕まえられることを教えます。 ：虫を種類別にかごに入れていろいろな角度から観察すると、体の細部まで見ることができます。		
【園や家庭に帰ってから】 別の場所に出かけて虫取りをしましょう。 園で実施した虫取りの様子を掲示して、保護者に知らせましょう。 虫を園まで持ち帰り、図鑑で調べたり、飼育しましょう。 運動会で、虫になりきる“なりきり競争”(障害物競走のように)をしましょう。バッタゾーン、ダンゴムシゾーン等を設けるといいでしょう。		
準備物・教材等	・ 飼育ケース 4つ ・ 白い紙	

